

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 3月 11日

事業所名 放課後等デイサービス サニーサイド

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	89%	11%	0%		国の基準を確保しているが、死角のない目の行き届く環境作りをしていきます。
	2 職員の配置数は適切である	89%	11%	0%		国の人員配置基準に加え、児童2人に対して1人の割合で児童指導員を配置しています。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	11%	67%	22%	トイレなどよりよくできる部分がある。	トイレは二つあり、一つ手すりがついていますが、プレイルームにはないので、日々転倒がないように職員が見守っています。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	33%	44%	22%	・目標は立てているが振り返りの機会をしっかりと作った方がいいと感じた。 ・一人一人の理解度の差が大きく見直しが必要。	支援会議や研修、毎日のミーティング等で全員が参画している事を自覚できるように意識付けをしていきます。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	78%	11%	11%		年度末までに事業者評価及び保護者アンケートを実施し、業務の改善に務めています。面談時の要望なども伺い、更に意向等の把握に努めていきます。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	22%	11%	67%		現状は事業所内に掲示して公開しています。ホームページに代わる発信媒体を検討中です。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	22%	44%	33%		社会保険労務士による外部評価を職員に告示していきながら、業務の改善に努めていきます。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	89%	11%	0%	年間を通して定期的に研修を行っている。	虐待・拘束・ハラスメント・ガイドライン・法令順守・感染症対策等様々な研修を実施しています。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	78%	22%	0%	半年ごとの面談、支援計画更新を行っている。指導員間での意見交換をしより適切なアセスメントをする必要がある。	分析をするにあたって、職員での会議を重ね、いろいろな目線、角度を入れて一つにまとめています。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	67%	22%	11%	契約時にアセスメントシートを作成している。これをもとに特性を把握し支援に活用している。	基本情報、課題分析のアセスメントシートを使用し、適応性や感覚統合なども把握できるように努めていきます。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	67%	22%	11%	各員でお互いの児童の活動に対しての意見交換があってもよい。	毎日のミーティング時に細かな内容なども職員間で話し合っています。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	56%	33%	11%	特性から固定化したものを好む児童もいるが、楽しく継続できるように工夫を重ねたり、季節の行事やレクなどを取り入れて実施していくのもよい	児童一人一人に合った活動に加え、季節の行事等で変化が出るように努めていきます。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	78%	11%	11%		休校日や長期休暇時には平日では見えてこない課題、余暇の過ごし方や、日々の支援の振り返りも行いながら努めていきます。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	78%	11%	11%		個々の状況に応じて課題や生活上の問題などを個別活動や集団活動を通して生活自立、社会参加出来るように作成しています。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	0%	ミーティングを毎日行っている。 欠勤者が確認できるようミーティング内容をまとめて共有LINEに送っても良いと思う。	児童担当表、送迎表を見ながら、その日の注意点や児童の特性を皆で確認し、保護者からの伝達等の報告も入れ打ち合わせを行っています。
16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	11%	67%	22%		退勤時間や、送迎時間の関係上、支援終了後での全体ミーティングはできていませんが、その日にあった事、保護者からの連絡事項等はグループlineを活用し全員が把握できるようにしています。	

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 3月 11日

事業所名 放課後等デイサービス サニーサイド

	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	89%	11%	0%	支援記録を毎日記入している。記入後に全体としての検証が行われていないので改善につなげていない。毎日の支援に生かしやすいフォーマットに変更を検討。	記録をとり、翌日のミーティングで、一日の振り返り、気づいた点や情報の共有をおこなっています。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	67%	22%	11%		PDCAを行うにあたって、半年に一回のモニタリングを行い、また児童の担当相談支援専門員との連絡を取り、計画の見直しをおこなっています。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	78%	11%	11%	放課後等デイサービスのガイドラインを定期的に思い出せるような機会を作る必要がある。	ガイドライン研修を年1回実施。理念や意義、基本活動などを確認しながら支援を行っています。簡潔にまとめたものを室内に掲示するなど工夫を検討していきます。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	56%	33%	11%		児童や保護者に深い理解を持ち、常に接している児童発達支援管理責任者が参画しています。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	78%	22%	0%	学校からの申し送りは「元気です」のみで終わってしまうことが多いのでこちらから必要なことを引き出せるように話をする必要がある。	学校との連絡は引き渡しの際や、メール、ホームページ等で確認を取り、情報共有をおこなっています。学校説明会にも出席し、連携を取っています。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	56%	22%	22%		現在、医療的ケア出来る環境は整っていません。該当する利用者様はおりませんが、てんかん発作がある児童はいますので、病院、保護者と連絡体制を整えています。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	33%	56%	11%	通常の幼稚園保育園からは何も無いことが多く、保護者からの情報だより。	必要に応じて記録やアセスメントなどの情報を共有しています。就学前の過ごし状況なども確認し、相互理解を深めています。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	67%	22%	11%		福祉サービス事業所や相談支援員と連絡を取り合い、必要な情報を提供しています。必要に応じて移行支援会議にも参加しています。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	44%	44%	11%		各児童の相談支援員との連携はこまめに取っています。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	22%	78%		児童館などの室内の施設は利用しておりませんが、公園などで健全なお子さん達と関わることもあります。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0%	44%	56%		参加できていませんので、機会があれば積極的に参加していきます。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	89%	11%	0%	面談以外にも必要に応じて連絡を取り合っている。	連絡帳の記載で利用児童様の様子や状況について共通理解出来るようにしています。送迎時に支援内容や課題などを伝え、情報共有もしています。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	56%	11%	33%		保護者様から相談を受け、困っている事や課題などについて助言や支援方法など利用時の状況を踏まえてお伝えしています。
30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	78%	22%	0%		新規面談時に、分かりやすく丁寧な説明を心掛けています。	

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 3月 11日

事業所名 放課後等デイサービス サニーサイド

保護者への説明責任等	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	78%	22%	0%		保護者様から相談があった場合、迅速に対応し、必要に応じて関係機関を紹介したり、他事業所と連携を取っています。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	11%	11%	78%		日程調整が困難なため原則保護者会等は開催していません。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	0%		苦情につながらないように日々努めておりますが、あった場合はその日のうちに解決、迅速に適切な対応をしていきます。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	44%	33%	22%		現在停滞しているため、発信の方法を工夫して見やすいようにしていきたいと企画中です。
	35	個人情報に十分注意している	78%	22%	0%		重要書類の保管を職員にも徹底しています。契約時の個人情報に関する同意書の同意・不同意の一覧を作成しミスのないように心がけていきます。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	67%	33%	0%		一人一人に合った対応を心掛けています。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0%	11%	89%		関係者以外の招待などはしていません。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	67%	33%	0%	保護者からもわからないという回答が多く、周知不足を感じる。	各種マニュアルはあり契約時に説明していますが忘れていたりすることも多いので、分かりやすく集約した冊子を作成することも視野にいれていきます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	0%		年に2回避難訓練を実施しています。室内での想定、施設の駐車場までの移動訓練だけなので、実際の地域の避難先まで想定された訓練も今後行っていきたいです。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	89%	11%	0%		年間行事予定表に虐待、身体拘束研修を組み、年に一回おこなっています。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	89%	11%	0%		年1回身体拘束について職員研修を実施しています。やむを得ず身体拘束が必要となってしまう場合には、記録を取り保護者様に説明させて頂きモニタリングと評価も行っていきます。体位保持の為に必要な拘束については、支援計画書に同意を頂いています。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	67%	33%	0%		アセスメントでアレルギーの有無を確認し、保護者から対応方法をお聞きしています。必要に応じて医師の指示を求めています。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	67%	11%	22%		ヒヤリハットは業務日報に入れ、翌日のミーティング時に振り返りと対策について話し合っています。